

子ども発達学部 FD フォーラム「あなたにとって大学とは？本音でトーク第2弾」実施報告

吉原 智恵子

日本福祉大学 子ども発達学部

中里 南子

日本福祉大学 子ども発達学部

Implementation Report of the FD Forum for the Faculty of Child Development
Heart to heart talk: What does university mean to you? Part II

Chieko YOSHIHARA

Faculty of Child Development, Nihon Fukushi University

Minako NAKAZATO

Faculty of Child Development, Nihon Fukushi University

実施概要

第2回子ども発達学部 FD フォーラムは、第1回 FD フォーラム (2008年1月) の成果および反省点を踏まえ、さらなる展開を目指して開かれた (実施日時: 2009年12月24日15時~17時, 場所: 15号館図書工作室)。参加者は、学生23名, 教員19名, 職員1名の計43名であった。学生参加者の内訳は、初等教育専修: 1年2名, 2年6名, 保育専修: 1年5名, 2年1名, 心理臨床学科: 1年2名, 2年7名であった。まず第1回目の FD フォーラムを振り返り、次に今回のフォーラムの概要を述べることにする。

2008年度に実施した第1回子ども発達学部 FD フォーラムでは、大学の授業や大学生活に学生は何を求めているのか、ということテーマとして取り上げ、KJ法を利用して意見交換を行った。このフォーラムは、学生・教員間の相互理解を深め、両者がともに今後の教授・学習活動をより活性化させていくための契機となることを願い、実施されたものである。得られた成果としては、

主に次の3点が挙げられる。まず1つ目は、学生間および学生・教職員間の交流が促進され、参加者が多様な意見に触れることができたことである。2つ目は、実行委員会の活動を通して相互交流が図られ、学びの場に対するコミットメントが深まったということである。そして3つ目は、学生と教員あるいは職員との意見のずれについての議論を深めていくには至らなかったが、予想以上に学生は教員との親しいコミュニケーションを求めている事が明らかになり、その意味での意識のずれが明確化されたことである (中里・吉原, 2010)。また、学生側からは定例化してほしいという要望が提出され、このようなフォーラムへの期待感を感じることができたことも1つの収穫であったと言える。

そこで第2回目となる2009年度子ども発達学部 FD フォーラムでは、「あなたにとって大学とは？本音でトーク第2弾」を実施した。今回は特に、学生と教員あるいは職員との考え方のずれについて議論を深めるには至らなかった前回の反省点を重視し、大学とはどのようなと

ころなのか、各自が定義する大学について語ることをテーマとして設定した。各人が語る様々な“自分にとっての大学の定義”に触れることから、個人が私的に大学に求めているものを越えて、大学は社会や人生の中でどういう役割をもっているところなのか等、より広い視野に立つ議論への到達を意識して計画された。

今回は前回と異なり、学生と教職員を分けて小集団を構成した(学生5グループ、教職員1グループ)。そして昨年度と同様にKJ法を利用した情報(意見)の整理、統合を行い、各グループのプレゼンテーションの後、全体討論を行った。

1. フォーラムの手続き

入口で配布されたくじ引きにより参加者を小集団に分け、グループごとに着席した。学生集団5グループ、教職員集団1グループが構成された。そして具体的なグループ作業についての説明を行った後、「あなたは大学をどのようなところだと思うか」というテーマで、グループごとにKJ法を使用して意見の整理を行った。まず各自がもつ意見を付箋紙1枚につき1つ書き出し、これを集積した。次に、集まった意見について類似性をもとに分類し、分類されたカテゴリーごとに特徴を集約するラベルを付与した。そしてカテゴリー間の関係を整理・考察して模造紙上に図式化した。その後20分間のコーヒープレイクをはさんで、グループごとに構成された図式についての発表を行い、全体討論を行った。

2. 「あなたにとって大学とはどのようなところか?」という問いに対する回答

表1は、各グループが分類したカテゴリーを示したものである。全体としては多様な意見が提出されたが、学生グループからの意見には「出会い」や「自立・成長」、「学び」といった共通した内容も見られた。また、学生と教職員を比較してみると、教育上の立場の違いが反映

表1. 各グループの回答(分類カテゴリー)

A 班: 出会い, 経験, 将来, 自分の成長, その他
B 班: 出会い, 遊び, 勉強, 自立
C 班: 出会い, 環境, 勉強, 将来, その他
D 班: 施設, 交流, 学び, 自由, 思う事
E 班: 自分を考える, 仲間, その他
教職員: 生業の場, 学び・教えるの場, 先生とは, 交流の場

されていることが読み取れる。しかしいずれも、他者との交流に係わる内容が提出されていた。より詳細な内容については、5. 資料を参照していただきたい。

3. フォーラムにおいて得られた成果

本フォーラムでの全体討論およびFD実行委員会における総括として提出された各種意見に基づき、得られた成果について以下に述べる。

学生にとっては、日頃の講義を離れたところで教員や同学部に所属する他の学生、および職員と自由に意見交換できる数少ない機会でもあり、本フォーラムで意見を述べることや、様々な意見に触れることができたことは評価できるであろう。また教職員においても、学生の率直な意見や他の教職員の意見を聞く機会となり、今後の教育・学生指導に対する何らかの示唆を得ることができたのではないと思われる。また、より一層のFD実行委員同士の事前交流や組織化(上級学年によるリーダーシップ)を求める声もあり、学年・学科・専修を越えた交流のニーズが明らかになった。しかしその一方で、学科・専修ごとに見られる問題意識の違いも指摘され、学科別でのフォーラムの開催や専修ごとの総合演習のクラス編成についての希望も提出された。さらにカリキュラム上の問題について指摘する意見や、個々の学生の意識改革を求める学生側からの意見もあり、学部として検討すべき課題のいくつかが明確化されたといえよう。

但し、討論の内容が個々の具体的問題に終始しており、大学は社会や人生の中でどういう役割をもっているところなのか等、広い視野に立って、学生・教員・職員というそれぞれの立場から議論を深めていくには至らなかった。

4. FD 実行委員会実施記録

本フォーラムを開催するにあたって、FDフォーラム実行委員会を発足した。実行委員として「総合演習」「総合演習」担当の教員各学科1名ずつ、および「総合演習」「総合演習」の各クラスより、学生の実行委員1名を募集し、選出した。本フォーラムが開催されるまでの実行委員会記録を以下に記す。

<FDフォーラム担当の教員(敬称略)>

FD委員: 吉原智恵子・中里南子

実行委員(選出): 前原清隆・渡辺顕一郎

< 実行委員会の実施 >

第1回：11月4日（水）12時30分～13時15分，
1511教室

第2回：12月2日（水）12時30分～13時15分，
1511教室

第3回：1月20日（水）12時30分～13時15分，
1511教室

< 協議概要 >

第1回：11月4日（水）

- 1) テーマ・内容説明
- 2) FDフォーラム日時と場所について
- 3) 今後のスケジュールと準備手続きについて
- 4) 連絡方法について（メーリングリストの作成）

第2回：12月2日（水）

- 1) KJ法のシミュレーション
- 2) 実行委員の役割分担
受付4名，買出し4名，カメラによる記録（前原清隆先生），書記（渡辺顕一郎先生）
- 3) メールアドレス（メーリングリスト）の確認
- 4) チラシの配布要請
- 5) 参加呼びかけ
- 6) 当日の集合場所及び集合時間

集合場所：15号館図書工作室，

集合時間：14時30分

第3回（総括）：1月20日（水）

フォーラム実施に関する総括を行った。全体討論では時間が短く意見を言いきれなかったという意見や、本学の話題に終始することなく、さらに大学の本質に迫るような議論の広がりが求められること、また、学科・専攻別での開催案など、様々な建設的意見が提出された。以下学生より出された意見をそのままの表現で列挙する。

- ・日ごろ思っていたことが言え、他の学生が考えていることを聞いて良かった。
- ・グループ作業の前に、メンバーがうち解ける時間があれば良かった。
- ・もう少し時間があれば、言いたいことが更に言えた。
- ・上級生のリーダーシップがあれば、1年生も積極性を持って意見が言えたのではないか。
- ・本学の話題に終始したが、大学とは何か、という議論をもっと広げられれば良かった。

- ・心理臨床学科の学生の出番が少なかった。
- ・テーマにもよるが、学科・専攻別でも良かったかもしれない。

5. 資料（提出された意見）

以下に各グループで提出された具体的意見をそのままの表現で示す。（*）は重複した意見が提出されていたものである。

- (1) 「あなたにとって大学とはどのようなところか？」
という問いに対する学生の回答

交流の場

- たくさんの人に会ってたくさんのことを学ぶ場所（*）
- 人がいっぱいいるところ
- 友達に会うところ
- いろんな（沢山の）人と交流できるところ（*）
- いろんな人の話を聞けるところ（*）
- いろんな人と出会い、いろんなことを経験（成長）する場（*）
- 人間観察
- 人間関係を築く（*）
- サークル（サークルを充実させる）
- 婚活
- 恋をするところ（*）
- 夢への第一歩
- いろんな立場の人とのかかわりを学ぶところ
- 先生と交流するところ
- 面白い教授が集まっている
- 交友関係を広げられるところ（*）
- いろいろな考えにふれるところ（*）
- 同じ趣味を持っていないと友達になりにくい
- 年齢が違う人が同じ分野について考える
- いろんな地域の人が集まっているところ
- 方言がいっぱい知れるところ
- 日本中の生徒が集まり、自分の観点、視野などを変えられる場

自由・モラトリアムの場

- 自分の好きなことをたくさんできるところ（*）
- 自由な時間がたくさんある
- 自由なところ
- 自分の時間がいっぱい持てる場所

- 自由が保障されている
- 自由なようで自由でない
- 社会に出るまでごろごろするところ
- これからの人生を考えていく時間
- やりたいことを見つけるところ
- 学生生活最後の場（大学院を除く）
- 社会までの1クッション
- 人生の夏休み
- 最後の自由に遊べる期間
- 自分の可能性を見つける最後の場
- 自分探しをするところ
- 人生で一番楽しめるとき

経験・学びの場

- 学ぶことがたくさんあるところ
- 自分の将来の進路をきめるところ
- 将来に活かせる経験ができる場所
- 自分の興味を追及できる
- 読書（*）
- 趣味を続けられる場
- 自分のスキルをあげるところ
- サポートしてくれるところ
- 好きなことが学べるところ
- ボランティア活動するところ（*）
- 多くを体験するところ
- サークル活動の場（*）
- 学ぶとは何かを考える
- 自治会運動をし、国や大学自体に要望を出す場
- 根本的な学び（哲学・算数）を求めることができ、要望によって基本を学ぶことができる場
- サークル活動・バイト・友人とのかかわりを通して自己発見・人間関係などの学びができる場
- 一般知識を身につけるところ
- 知識を増やすところ
- 将来について考えられるところ
- 自分の将来を見つめる場所
- 国・政治・その他の団体について議論し、考える場

講義・学問の場

- 勉強する（*）
- 実習
- ピアノを弾く
- 資格取得（*）

- 専門的なことを学べるところ
- 学問の宝庫、いろいろなものがあり選択している
- 子どもがいないけどどうこう言っている
- 土曜日も講義
- レポート地獄（*）
- 多くて選べないカリキュラム
- 自分のつきたい職業に関して専門知識を勉強するところ
- 基礎知識・専門知識・一般教養などを学ぶことができる場
- 将来のために知識や技術を学ぶところ（*）
- 将来の夢のために勉強するところ（*）

自立・成長

- 自立しないといけないところ（*）
- 成長するところ
- 家族の大切さを再発見
- 洗濯
- 料理
- バイト
- そうじ
- お金のやりくり
- 力をつける
- 現実を目の当たりにするところ
- 自分の力で物事を行うところ（*）
- アルバイトをして仕事を体験する
- 自分の視野を広げる場
- 自分自身を見つめる場
- 夢を見つけるところ（*）
- 自分の将来の目標を見つける（*）
- 生きる目標を見つける
- 自立精神を身につけるところ
- 自立するところ
- やりたいことをやれる場所（*）
- 精神力を養うところ
- 好きなことをするところ（*）
- 自主的に行動し、自身に答えを求められる場
- 他人にあって自分がないものを見つけるところ
- 時間の使い方を覚える
- 社会とはまた違う責任を覚えるところ

環境・施設

- 広い所
- 階段が多い

- 移動が多い+遠い
- テニスができる
- コンビニみたいな
- 駅から遠い
- 田舎
- 海が近い
- 坂が長い
- レストラン
- 風が強い
- 山・海・遠い
- 猫がいる
- 家から遠い

遊 び

- お酒
- 遊ぶ (*)
- ノリ方を身につける
- コンパ
- 都会を知る場
- 盛り上げ方を知る場
- おしゃれ
- 旅行
- 買い物

その他

- 趣味
- 楽しい所
- ゴミ分別をしていない人が多い
- 生協で普通の食材が置いてない
- 親のすごさが知れるところ
- 第2の家
- 集合場所
- 高い学費・資格費用
- 掃除のバイトができるところ
- 眠くなってくるところ
- 疲れるところ
- なんか、あーってなるところ
- めんどくさいところ

(2) 「あなたにとって大学とはどのようなところか？」

という問いに対する教職員の回答

生業の場

- 働くところ (*)
- お仕事の場

- 役割
- 非営利組織
- 生活基盤
- 1日の大半を過ごすところ
- 小中学校より休みが短くなったところ
- いっぱい歩くところ
- Windows だらけで Mac 使いは肩身が狭いところ
- 複雑なところ
- 会議が多い
- ある意味自由, ある意味束縛
- 忙しいところ
- 書類がいっぱい
- 広大な施設とインフラ

教育・研究の場

- 学ぶ人のために支援をする場
- 研究指導, 学習指導の場 (次の世代へ)
- 学生の言葉を聴くところ (でもなかなか聴けない)
- ゼミナール活動
- 学問・学びを育てる
- 学びの空間
- 子どものみんなの考え, 感じ方を知るところ
- 地域に学ぶ
- 真理の探究
- 研究を深める
- 現実を見つめ, 理論化する
- 議論の場
- 言論の自由
- 自由な雰囲気
- 地域貢献の可能性がある場
- 生き抜く力を育てる場
- 得意技を身につける
- 学生生活を通じた人間形成の場
- どんな職につくかを考えながら過ごす場所
- 先輩から学び, 後輩に伝えていく場
- 研究をすることを保障してくれる場
- 好きな研究がどこまでもできる
- 命を次へつなく場

大学教職員の組織集団

- 大人の集団
- 責任を持つところ (持たなきゃいけない)
- 好きなことをさせてもらえるかもしれないところ

(ときどきさせてもらえない)

- アウトプットの間
- 度胸のある先生方が多い
- 私以外の大学の先生の能力は高い，天狗にならずにすむ
- 他の先生のすごいところをみることができるところ
- 大学の先生の話は面白い(経験豊か)

交流の間

- 酒を酌み交わす
- 出会い・交流の間(*)
- 酒の飲み方を覚える間

その他

- 日福大の学生さん，明るく元気，人懐こい
- 学食
- 夜更かし
- 日福大の学生さん，小学校教師を目指す方は勉強したほうがよい
- お菓子を食べる(ケーキ)
- 生きがい
- 人生とは闘う間

引用文献

中里南子・吉原智恵子(2010) 子ども発達学部FDフォーラム「あなたにとって大学とは?本音でトーク」実施報告『日本福祉大学子ども発達学論集』第2号, 77-81.

謝辞

本フォーラムの開催については，FD実行委員，当日の参加者をはじめ教職員の皆様方からの暖かいご協力を賜りました。また本稿は，渡辺顕一郎先生による当日の実施記録，前原清隆先生による実行委員会総括の記録を参照させていただきました。皆様に厚く御礼申し上げます。